

平成27年度「校外へ公開する研究授業」実施報告書

ホームページ掲載日	平成 27 年 11 月 9 日 (月)						
実施年月日(曜)	平成 27 年 10 月 8 日 (木)						
授業時間(時限)	9時 55分～ 12時 15分 (2・3 時限)						
公開学年・公開教科(公開授業名)	普通科 2年1組 コミュニケーション英語Ⅱ 国際教養科 2年7組 コンピューターLL演習						
授業者名	長谷川絵里(普通科授業)、中平聖子(国際教養科授業)						
形態	初任研・10年研・教育課程研究委員会・ 小中高算数・数学研究会・ <u>その他</u> (英語教育研究会) (○をつける)						
授業公開対象者	英語教育研究会参加者						
授業参観者数	校内		校外			その他 ()	合計
	教職員	保護者	教職員	地域住民等	生徒		
	5人	人	10人	人	人	人	15人
校外の人々の参観にあたって特に配慮した取組	駐車場の確保、校内案内図の作成 研究会のための資料作成 授業にあたっては、ALTとのTTによるall englishによる授業展開、および調査・発信型授業の展開を示し、ご意見ご教授をいただく。						
授業研究会の時間・参加者の範囲・参加人数・参加者から出された主な感想・意見	14時00分～14時50分 授業研究会には公開授業参観者が参加し、各校の授業の様子・課題などを交えて、活発な意見交換がなされた。 (普通科) ・small-talkの流れが良く、積極的な言語活動が見られた。間違えても良いという雰囲気を作り、パフォーマンスを大胆にするよう指導してはどうか。そのためにグループトークの導入も考えられるのではないかと。 ・授業の最初に、この時間に身に付けて欲しいことや目的を示し、どの程度到達したかを生徒自身に評価させる方法の導入を考えていきたい。 ・教科書の和訳を授業で取り扱わないことの重要性がある。 (国際教養科) ・模擬国連の授業。自ら調べて発表する。アクティブ・ラーニングの実践となった。 ・調べ方が定着していない。どのような資料が必要なのかを互いに説明し合うやり方を学ぶ必要がある。お互いに調べていることを伝え合うなどのルールも必要となってくる。 ・地歴公民の先生や理科の先生も巻き込んで様々な見地を導入してみてもどうか。						
成果と課題	・教科内の分担、協力体制、共有化の必要性や、他教科の先生方の協力を必要とすることなどは、いずれの学校でも共通課題であることが見えてきた。 ・到達点、目標を最初に掲げ、それに至る道筋の作成、到達状況の評価・振り返りを行う授業の導入が今後の課題となる。						